

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

一步踏み出すことの勇氣

通信教育部福祉心理学科卒業生 伊熊久美子

東北福祉大学通信教育部の皆様、こんにちは。今回、皆様へのメッセージを依頼されましたが、私に何がお伝えできるのか悩むところです。東北福祉大学での学生生活は、私の今までの人生の中でとても楽しい時間でした。皆様にもそんな楽しい学生生活を送っていただけたら嬉しいです。

39歳の決意

この歳で大学生って、ちょっと戸惑いますよね。3人の子どものお母さんであり、一番下の息子はやっと小学校入学という年に東北福祉大学への入学を決めたことは、私にとって大きな決意でした。その結果、一番下の息子とは卒業をかけて競争することとなり、仲良く「息子と2人、ぴっかぴっかの1年生」になったわけです。

久しぶりの学校生活で緊張する私の気持ちを解してくれたのは、同様に不安を抱えて入学された仲間や親切に対応していただいた講師の先生、事務室の職員の方々でした。数々の我儘で特に事務室の職員の方々にはご迷惑をおかけしたのではないかと思います。さらに強力な助っ人として、小学校高学年になる娘も私の学習をサポートするといい、自称「担任」として学習の評価をしてくれました。大学の評価よりも厳しい辛口のコメントに何度も泣きたくなりましたが、子ども達の温かな応援もあって、何とか憧れの女子大生を過ごすことができたのです。

一番大切なこと

大学での学習をするにあたって心配なことってたくさんあると思います。スクーリングの授業についていけるか、ちゃんとレポートが書けるか、何よりも試験に合格できるか等、悩みは尽きないですよ。でも、もっと大切なことがあるのだと気がついた授業がありました。それまでのスクーリングは講義をしっかりと聞いていくことで、それなりに学習をこなしていました。しかし、その時の講義は他の学生さんと2人で課題をこなすことになり、知らない人ばかりだし、1回限りの付き合いだからとコミュニケーションを避けていた私は、ペアを組む相手が見つけれなかったのです。たった一度、されど一度だったわけです。ところが慌てた私にたくさんの方が声をかけてくれました。人の気持ちを理解していく仕事に就きたいと東北福祉大学への入学を決めたはずなのに、一番大切にしないではいけない「人との関わり」を忘れていたのです。卒業した今も東北福祉大学で関わった方との関係は続いています。

みんな違っていい

現在、24時間365日、児童と関わる職業に就いています。一緒に学習したり、工作やスポーツといった活動をしたり、個別の面接も行っています。1人1人考え方の違う子ども達に日々「悪戦苦闘」しながら向き合っていますが、仕事でありながら私にとっては毎日が学習です。日々、子ども達の機嫌や行動が違い、私たち職員の対応もそれに応じて変わります。当たり前のことですが、東北福祉大学で学習したことは参考にしかありません。失敗して学ぶことも多いです。本当に人の気持ちを理解することの難しさを実感します。でも、この子ども達がみんな同じじゃなくて安心するんです。だって機械じゃないんですもの、人間らしくていいじゃないで

すか。子ども達が、職員と関わって、他児と関わって学ぶことで、成長する姿をみていくことができるのは嬉しいことです。

私を動かした恩人との約束

私が心理の仕事にすすむきっかけをくれた人の言葉です。「人」という文字の意味を聞かれたらあなたはどんな風に説明しますか？「1人の人が立っている姿を他のもう1人が支えている」「1人の人がしっかり自分の2本の足で立っている」・・・おそらく人は誰もが1人では生きていけないと思います。でも私は、自分の足でしっかりと立ったうえで誰かを支えられる人間でありたい。あくまでも理想です。実際は私自身も誰かに支えられて生きていますが、気持ちはそうでありたいですね。どちらも答えなのだと思います。ならば、私は人を支える側の人でありたいのです。「受けた恩は別の誰かにかえしてくれたらいい」という言葉が、私を支えてしっかりと立たせてくれた恩人との約束でした。そうやって人と人が繋がると素敵だと思うんです。

自信を持って自分のペースで学習

学習はまわりの人の進み方を気にすると自分が辛くなります。分からないことは何度でも講師の先生に聞くといいと思います。親切に教えてくれます。スクーリング時は受講生同士でお昼休みに話してみるのもお勧めです。コミュニケーションの練習にもなります。私は講義で話された内容を受講生同士で実際に行ってみて理解を深めたこともありました。私が東北福祉大学での学びで一番大変だったことは、人間関係の難しさかも知れませんが。心理職はコミュニケーション力が重要です。実際には教科書通りにいかないことが殆どです。困った時に役に立つのはスクーリングで苦戦し

たコミュニケーションなんていうこともあります。講義からは知識を、一緒に学ぶ仲間からは人との関わり方を得られるところが東北福祉大学の良さだと私は思います。

最後になりますが、私は1科目のレポート再提出回数が最高5回、科目修了試験の再試験回数も多数、卒業研究の提出もギリギリでしたが、とても楽しい大学生活を送ることができました。皆様に、こんな卒業生がいたのならば「私にも頑張れそうだな」と思っていただけなら幸いです。諦めずに頑張ってください。良き仲間とたくさん出会えることを祈っています。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●心理学研究法Ⅱ 中村 修・平川 昌宏・柴田 理瑛

- ・ボリュームはあったと思いますが、どれも必要な内容で充実したスクーリングでした。演習で実際にやることにより、自分で考え深められると思いました。とても楽しい感覚になりました。

●家族心理学 平泉 拓

- ・精神保健福祉士取得を目指しています。家族全体での問題が精神障害を抱える方には多いと感じられたので、受講しました。家族内のルールに着目すること、コミュニケーションは相互拘束であること、原因の分析をしない援助の進め方など、今までにない発見がありました。面接のロールプレイでは、面接の難しさや場数を踏む大事さを感じました。
- ・隣の人と話すなどのワークが多く、理解が深まりました。休憩を多くとっていたので集中しやすかったです。人は問題が起こった際に原因を追究したくなりがちであること、問題の分析が解決に役立つとは限らないということに衝撃を受けました。同時に、問題の原因を特定しなくても解決像は語れるということ、特に例外について話すということがとても面白いと思い、自分でも実践したいと思いました。

●教育心理学 白井 秀明

- ・「教育」という意味をとても考えさせられた。先生ご自身のご意見をはっきりと伝えてくださって感動した。その熱意に私は涙が出てきた瞬間があった。先生の伝えたい「教育」というものを実生活の中に活かせたらと思いました。
- ・障害児の描画行動に対する発達から、「わく」（ヒント）を与えて画をかかせることで顔が描けるようになり、その子の発達の最近接領域が広がった。このように障害をもつ子1人ひとりへの支援をどのようにするか考えることが重要であることがわかりました。

●学習心理学 柴田 理瑛

- ・自分たちの行動は、自分で決めているのか？ 環境に決められているのかもしれない。人それぞれの五感の感じ方の違いの重要性や、認知から行動に至るまでを考えさせられました。
- ・ある出来事を、覚えるだけでなく忘れることも学習であることが、先生の講義を通して理解できました。思い出したくない嫌な記憶を忘却することで、自身の気持ちが前向きになれることは大切だと思います。